

最近、マダニによる感染症で、亡くなったというニュースが多く見受けられます。そこで今回は、“マダニ感染症”に関するお話です。

★ 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

2011年に、初めて特定されたSFTSウイルスに、感染することにより引き起こされる病気で主な症状は発熱と消化器症状で、重症化し死亡することもあります。SFTSウイルス自体は、以前から国内に存在していたと考えられますが、2013年1月に初めての症例が確認され、現在(2017/8/E)までに、**全国23府県で299例(内、60例で死亡)の症例**が確認されています。

★ 感染経路

ウイルスを保有している“マダニ”に咬まれることにより感染していますが、感染患者の血液、体液との接触感染もより報告されています。

また“マダニ”に噛まれた、愛犬、猫から人間への感染する場合がありますので“マダニ”の潜んでいそうな場所への散歩は避けるように心がけましょう！

マダニ感染症の経路



★ 症 状

マダニに咬まれてから6日から2週間程度の潜伏期間を経て、主に原因不明の発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛等)が出現します。時には、頭痛、筋肉痛、神経症状(意識障害、痙攣、昏睡)、リンパ節腫脹、呼吸器症状(咳など)、出血症状(紫斑、下血)を起こします。

★ 予防方法

SFTS等のマダニが、媒介する感染症を予防するためには、マダニに咬まれないようにすることが重要です。特に、マダニの活動が盛んな春から秋にかけては注意が必要であり、農作業、レジャーや庭仕事など野外で活動する際には、次の点に注意が必要です。

- ① 長袖、長ズボン等を、着用して皮膚の露出を避け、ズボンやシャツの裾等を入れ込んで、マダニの入り込みを防ぐ。長靴を履くのも効果有り。
- ② 屋外活動後は、体や服を叩き、マダニに刺されていないか確認する。
- ③ 帰宅後は、直ぐに入浴して身体をよく洗い、付着したダニを落とし、衣服は洗濯する。



【ワンポイント】

- ・ マダニは、身体に取り付いて直ぐに刺すのではなく、体の柔らかい部位をさがして刺す習性があります。脱いだ衣服は放置せずすぐ洗濯するか、ナイロン袋等に入れて口を縛っておく。吸血中のマダニを見つけた場合は、できるだけ医療機関で処置する。
- ・ マダニ類は、体部を摘んで引っ張ると、口器がちぎれて皮内に残ってしまうことがある為口器を残さない方法でマダニを除去する必要があります。
- ・ マダニを潰してしまうと、そのマダニが万一に病原体を持っていた場合に感染するリスクがありますので、マダニは潰さず慎重に除去する必要があります。

秋の行楽シーズンには、外に出歩く機会が増えると思います。備えを充分にして、秋の満喫を！